

スポーツのオフシーズン。

毎年プロ野球のオフシーズンがやって来ると、どこのテレビ局もプロ野球選手の契約更改なるものが発表される。そして必ず推定年俸何億円という途方もない数字が飛び出してくる。しかも国営放送のNHKまでもが悪乗りして、この数字をスポーツニュースなるものの中で発表している。しかし小生はこのニュースに対して、いつも違和感を覚える。これはプライバシーの暴露ではないかと思えるからである。何故いちいち推定年俸までNHKのニュースで発表しなければならないのだろうか。日本人の平均年収は450万円程度である。この50倍もの年報をあえて発表することは、ただでさえ問題になっている日本人の格差社会を一方で是認し、助長しているようにも見える。確かにそれだけの働きをした結果として得られた年俸かもしれない。しかしプロスポーツは所詮ショービジネスの世界であって、その年報をNHKまでが発表することは、何のためなのか理解に苦しむ。NHKニュースとして発表しなければならない大問題なのだろうか。またNHKは主な政治家の年収を推計してニュース(2015年12月5日午後6時)の中で公表するなど、個人の収入に特に興味があるように見える。しかしこれとても公共の電波を使って、あえて公表すべきことなのだろうか？少々疑問である。

★ ★ ★ ★ ★

NHK初めマスコミは、ゴルフの賞金に対しても賞金王だとか賞金女王だとか、とかく個人の収入を公にしたがっているように見える。いやこうした公私の感覚がマスコミの職員は麻痺してしまっているのかも知れない。ゴルフの場合は日本プロゴルフ協会が公にしている数字のようだが、小生にはこれにも違和感を禁じえない。こうした報道は、果たして国営放送の行うべきニュースの真の姿なのだろうか？という疑問からである。現在の拝金主義を助長しているように見えてならない。さらにはスポーツ選手の収入と内閣総理大臣の収入と、どこが違うというのだろうか。かつては国税庁がいわゆる『長者番付』なるものを発表していた。しかし現在では行われていない。当然のことだろう。ところがマスコミ界はその辺の感性がどこも麻痺してしまっている。タレントの収入もスポーツ選手の収入も役人の収入も、こうしたものはすべて個人のプライバシーの問題である。公共の放送が云々するものであってはならない。高額収入者の子弟が、誘拐犯に狙われる可能性も考えられる。もしこうした事件が発生したとき、NHKは『今回の誘拐事件は、高額所得に対する嫉妬心が原因だったと思われる。』とでも報道するつもりなのだろうか。

★ ★ ★ ★ ★

確かに殆どの国で、一流スポーツ選手は高収入へのいわばバイパス的な役割を担っている。そして本人の努力次第では貧困家庭に育ちながらも、世界へ名を馳せる選手も少なくない。そしてスポーツの世界ではそのチャンスも多い。

しかしその一方では怪我や、不運に見舞われて、貧困に陥るプロ野球選手もまた少なくない。華やかな世界にのみスポットライトを当てるよりも、むしろこうした恵まれない選手や、一般市民の貧困からの救済に知恵を絞って工夫を凝らし、そういう番組を制作すべきではなかろうか。あるいは同じスポーツでも名も知れないアマチュアスポーツの現状を、NHKの感性で掘り起こしてはいかがなものだろうか。2020年のオリンピック・パラリンピックにしても、すぐ金メダルの話になる。しかし金メダルは輝かしく選手の目標に違いないだろうが、周囲の人間が金メダル金メダルと言って、やたらと選手にプレッシャーを与えることは、いかがなものかと思う。金メダルはあくまでも努力目標であって、マスコミの目標ではないし、国家の目標でもない。またそうあってはならない。あくまでも努力と精進の結果としての金メダルなのである。

★ ★ ★ ★ ★

共産圏の国家においては、とにかく金メダルを獲得することが、国家の目標となってきた。そして金メダルを取得した選手は、とにかく生涯の地位と収入が保証されるがごとき風潮があった。しかしその結果が、[国ぐるみのドーピング違反](#)である。これは選手の犯罪であることはもとより、国家の犯罪であり、こうした国家にはスポーツに参加する資格もスポーツを語る資格もない。リングの外で静かに見ていてほしい。小生はかつてのオリンピックの体操など、個人の技量を審判が採点する競技において、公平であるべきスポーツの採点が、こんな個人感情むき出しのものでいいのかと疑問を持っていた。そして当時ソ連邦の選手がメダルを独占するようなことがしばしばあった。今回のロシアのドーピング問題を見て、この国の行うことは、政治も経済もスポーツも、すべてが嘘偽と自国への利益誘導以外の何物でもないと思えるようになって来た。その根源は千島問題であり、『日ソ中立条約』を終戦直前に破棄して、参戦し対日戦の勝利国へと躍り出た事実であり、元日本兵のシベリア抑留問題である。はっきり言ってなぜロシアがこれほどまでに西欧世界と対峙しなければならないのか理解に苦しむ。

★ ★ ★ ★ ★

さて話を元へ戻すとしよう。そもそもNHKはニュースの時間が多すぎる。それはそれで悪いことではないが、もっと巷のニュースを掘り起こして、ほのぼのとした市民生活の背景を描き出すべきではなかろうか。どうもニュースの時間に、大きなニュースがないと、どうでもいいプライバシーの世界に首を突っ込んで来ているのではないかと、疑いたくなるというわけである。しかもNHKは民放に対抗して視聴率を気にしすぎる。小生が広告代理店に勤務しているとき、NHKの友人から視聴率の問い合わせがあった。視聴率の調査は、今も昔も広告代理店の系列会社1社のみが行っていたのである。当時は聴取料の不払いが多いときで、多分、番組が面白くないから支払わない家庭が多いとの、内部批判もあったからだったのだろう。

しかし最近では若者はテレビなどあまり見ない。もっぱらスマホの時代であって、テレビを見ているのは概ね中年以上の年配者である。なおかつ、マスコミ全体を見れば新聞もテレビもその全盛期は既に過ぎている。市井の人々が興味を抱く記事は、インターネットで十分である。かつてはテレビ番組の一覧を見るために新聞を契約していた家庭も多かったようだが、今では、テレビの画面を切り替えればどの局でどんな番組を行っているかすぐに分かってしまう。インターネットは、そういう点ではマスコミを根底から破壊してしまった。もはや唯一の聖域は業界紙という事になるのだろうか。

そしてNHKが『どうだ、面白いだろう』と言いたげな番組に、お年寄りたちも若者たちも、あまり興味を持っていない。いわゆるバラエティー番組は、どれをとっても民放にかなわない。いわばバラエティーの歴史が違う。我々が面白いと思う番組は、いわばNHKが歴史的に作りなれている、インテリジェンスが多少とも刺激される番組であって、[民放のサル真似番組ではない](#)。つまりもっともNHKらしい番組を期待しているのである。

★ ★ ★ ★ ★

その昔ラジオの時代には、しばしば臨時ニュースという時間があった。当時は『臨時ニュースです！臨時ニュースです！』という声が響いてくると、全員が緊張してラジオの前に集ったものだった。木星号の墜落も、桜木町行き電車の火災も、この臨時ニュースで知った記憶がある。しかし現在では字幕スーパーに変わってしまった。確かに現在はリアルタイムですべてのものが進行する時代であり、ニュース番組は最も興味がそそられる時代になった。世界を一瞬のうちに駆け巡るニュースは、時としてテレビ画面に釘付けされることも少なくない。しかし世界を驚かすようなニュースがとくにない場合、NHKのニュース番組は不愉快なこともしばしばである。地震が起こったりすると、津波が起こりそうな場所へ中継車を派遣し、潮位が30cm高くなったとか、些細なことを何時間もオンエアしている。まるで大津波をキタイしているかのごとき有様なのである。NHKもニュースの時間をもう少し工夫して、政治とスポーツばかりに重点をおかずに、経済ニュースや、動物や植物の日々の変わりようなど、もっと身近なものにも目を留めて、視聴者の誰もが、ほのぼのと心癒されるものへの変身を遂げるべきではないだろうか。この方がずっとNHKらしくなる。そして企業名を隠してみたり、出してみたり
の不公平を撤廃して、良きも悪しきも、すべて企業名入りでオンエアするか、すべて企業名を伏せてオンエアすべきではないだろうか、企業名を出すか出さないかの基準が、はっきりしていないことの方が、はるかに大きな問題のように思う。

★ ★ ★ ★ ★

ともかくNHKに申し上げたいのは、あらゆる社内の放送基準を見直して、視聴者に公平で役に立ち、なおかつ良識も常識もある放送をオンエアしていただきたい。